

巻頭言

叢書「コンフリクトの人文学」の刊行に寄せて —— 小泉潤二・栗本英世 —— III

序論

コンフリクトと移民

新しい研究の射程 —— 池田光穂 —— 003

はじめに

1. 多文化共生社会という問題構成
2. コンフリクトと移民を考えるグローバルスキーム
3. 本巻の構成について
4. 第I部「文化理論」の各章の解説
5. 第II部「在日状況」の各章の解説
6. 第III部「実践研究」の各章の解説
7. 「コンフリクトと移民」研究へのプロレゴメナ(序論)

第I部 文化理論

第1章

移民の哲学

グローバルエシックスとしての歓待の倫理 —— 松葉祥一 —— 033

はじめに

1. 国家横断的的市民権
2. 歓待の法
3. グローバルエシックスの可能性

結論

第2章

外国人労働・構造的暴力・トランスナショナルリティ —— 池田光穂 —— 049

はじめに

1. 外国人労働者とは
 2. 外国人労働者の受け入れの背景にあるもの
 3. 外国人研究生問題とは何か
 4. 苦悩との遭遇と暴力性の予感
 5. 構造的暴力
 6. トランスナショナルリティの概念
- おわりに——医療通訳から考える

第3章

メキシコにおける輸出工業化と移民予備軍の形成

輸出アパレル産業の発展にともなう労働観の変容 ————— 藤井嘉祥 — 075

はじめに

1. 産業のグローバル・ガバナンスとメキシコ・アパレル産業の「マキラ化」
 2. 「ブルージーンズの都」の盛衰——プエブラ州テウアカン地域
 3. 村落社会の変容と「マキラ的」労働観の形成
 4. 労働観の変容と消費欲求が生み出す移民予備軍
- おわりに

第II部 在日状況

第4章

外国人看護師・介護福祉士候補の受け入れをめぐる葛藤

EPAスキームにみる選抜方法・技能標準化・コストの課題 ————— 奥島美夏 — 109

はじめに——保健医療人材の国際移動におけるEPAの位置づけ

1. 受け入れ制度の概要
 2. EPAスキームの構造的齟齬——旧外国人研修制度からの離脱と限界
 3. 本国保健医療事情と教育・資格制度にみる日本との相違
 4. 制度改革の課題——コストと効率性からの再考
- おわりに

第5章

ことばと文化の壁を越えて

在住外国人の保健医療に関する課題と挑戦 ————— 中村安秀 — 137

はじめに

1. 日本の外国人医療の課題
2. 医療通訳士の現状と課題
3. 医療通訳士協議会の設立と今後の課題

第6章

親密な関係の交渉

在日の国際結婚カップルのライフスタイル ————— 山本ベバリーアン — 153

1. 問題設定と背景
2. 国際結婚家庭の増加
3. 国際結婚の解釈
4. 研究参加者の紹介
5. 結婚するに至った背景
6. ジェンダーによる役割の交渉
7. 親密性の交渉
8. 育児と子育ての基準
9. 結論

第7章

「往還する人々」の教育戦略

日本在住外国人の事例から ————— 志水宏吉 — 183

1. 問題の設定
2. 中国・コリア系の人々の教育戦略
3. 国際結婚家庭の教育戦略
4. 日系ブラジル人の教育戦略
5. グローバル化のもとでの公教育の再編

第8章

外国人労働者問題の根源を考えるためのノート

東南アジア出身の外国人研修生・技能実習生を中心に ————— 崔 博憲 — 211

- はじめに
1. 日本における外国人労働者
 2. 外国人研修・技能実習制度の実態と改正について
 3. 「賭ける」者たちと「グローバルなスト破り」
 4. タイ人研修生・技能実習生の送り出しシステム
 5. 「それでも自分はマン」
- むすびにかえて

第 III 部 実践研究

第9章

多文化間精神医学の事例研究としてのベトナム—日本

————— 植本雅治・三浦 藍 — 241

1. 多文化間精神医学とは
2. ベトナムにおける研究

第10章

実践的対話手法 ————— 中岡成文・高山佳子・本間直樹 — 267

1. 理念と方向性
2. たかとり教会での取り組み——対話から語り合いへ
3. 外国にルーツをもつ人たちと対話する——大阪北摂地区での連続対話の試み

第 IV 部 研究への誘い

第 11 章

「コンフリクトと移民」を考えるブックガイド ————— 池田光穂 — 303

1. 女性労働・ジェンダー・性的分業と労働移民
2. 通訳・翻訳とポリティクス・言語問題
3. 法・人権・思想
4. 日本の多文化共生社会の現状と模索・市民活動
5. 多文化共生教育・教育保障
6. 医療・福祉
7. サバイバース・マニュアル・参加型開発
8. 日系人・Nikkeis
9. 都市生活における移民の民族関係
10. 経済・国家・国民・統治
11. 民族差別・人種差別(レイシズム)・ヘイトスピーチアクト
12. カルチュラル・スタディーズ
13. ポストコロニアル・脱植民地化研究
14. 移民問題・ディアスポラ現象・民族問題
15. アジアと日本——少数民族、先住民問題を含む

執筆者紹介

————— 337